

# 令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 東朽網 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、5年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

### 1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

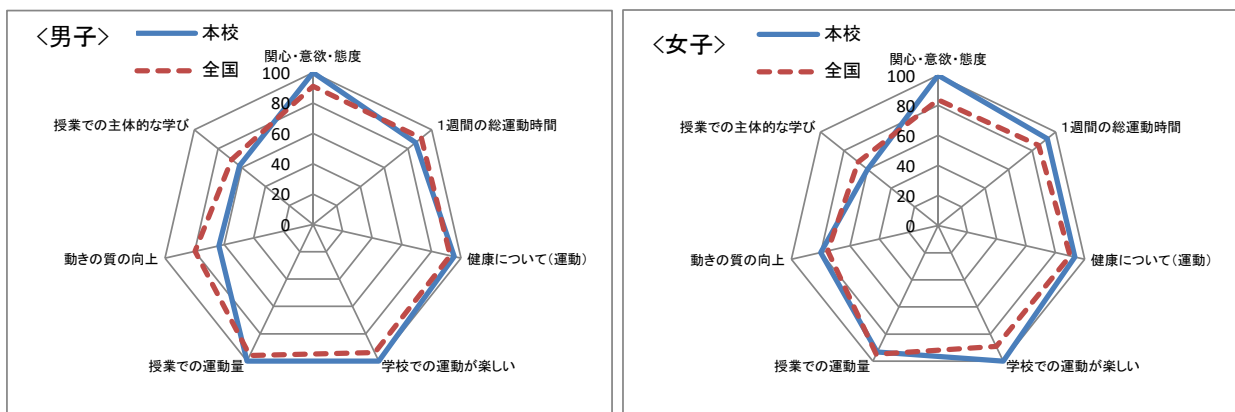
### 2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

### 3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



#### 質問紙調査の結果分析

男子女子共に、運動やスポーツに対する関心や意欲は高く、学校での運動を楽しんでいる児童が全国平均を上回っている。また、体育科の授業での運動量も十分に取れていると実感する児童も、全国平均以上となっている。これらは、チーム意識を高める授業実践や、年間を通して学校で取り組んでいる「東朽網っ子タイム」等が好影響を与えていると思われる。週2回、15分休みを使って走ったり、縄跳びに取り組んだりする「東朽網っ子タイム」は、運動習慣形成の土壌にもなっている。しかし、「授業での主体的な学び」や「動きの質の向上」は全国平均と比べても下回っているのが課題である。

### 4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

「授業での主体的な学び」及び「動きの質の向上」を高めていくために、体育科学習の中で、「タブレット端末の活用」「振り返りカードの活用」に取り組む。タブレット端末を活用することで、自身の動きを即座に確認することができ、課題を明確に捉えることができる。また、学習の終わりには振り返りカードに記入し、自身の動きの分析や次回の活動の目標を定め、よりよい動きの習得を目指せるようにする。

#### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

○東朽網っ子タイム・・・15分休みに運動場を低・中・高に分かれて走ったり(1・2学期)、縄跳びをしたり(3学期)することで体力向上と運動習慣の定着を図る。活動の様子を、学校通信や学年通信・学級通信等で配信することで、児童の意欲の継続や、家庭への情報発信に繋げる。